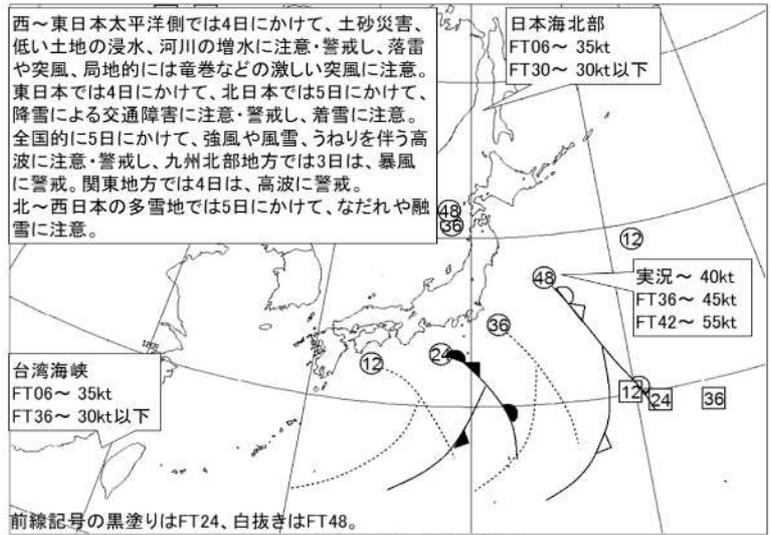


1. 実況上の着目点

- ① 日本の東には発達した低気圧があって南東進。また、シベリアに高気圧があって日本海に張り出している。
- ② 九州の東には前線を伴った低気圧があって東北東進。これと別に、本州の太平洋側沿岸に気圧の谷がのびている。低気圧や前線と、気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、西日本の太平洋側～伊豆諸島で強い雨を解析。
- ③ ①の低気圧周辺の風浪を波源としたうねりの影響や、①の低気圧と高気圧との間や②の低気圧周辺で気圧の傾きが大きく、強い風や非常に強い風が吹く影響で、波が高くなり、しけている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の低気圧は、4日朝にかけて本州の太平洋側沿岸を東北東進し、その後は500hPa 5580m付近のトラフと対応が良くなりつつ850hPa 9°C以下の寒気を引き込むことで、4日～5日にかけては急速に発達しながら日本の東を北東に進む。低気圧や1項②の気圧の谷に吹き込む下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨が降って大雨となる所がある。西日本太平洋側では3日は、東日本太平洋側では4日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 2項①の低気圧接近通過時は、850hPa 0°C以下の下層寒気に覆われ、降雪が強まる所がある。東日本では山地を中心に4日にかけて、降雪による交通障害に注意・警戒し、着雪に注意。
- ③ 4日は、日本海中部の500hPa 5400m付近のトラフに対応して、地上低気圧が発生し、5日にかけて北へ進む。この低気圧や2項①の低気圧の影響で、北日本の太平洋側では東から湿った空気が流れ込み、降雪が強まる所がある。北日本では5日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪に注意。
- ④ 1項①の低気圧と高気圧の間や、2項①の低気圧や前線の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、局地的には非常に強い風が吹く所がある。海上は、うねりを伴い波が高く、しける所があり、4日～5日は北～東日本の太平洋側で、大しけとなる所がある。北～東日本と南西諸島では5日にかけて、西日本では4日にかけて、強風や風雪、高波に注意・警戒し、九州北部地方では3日は、暴風に警戒。関東地方では4日は、高波に警戒。
- ⑤ 北日本では5日にかけて、東～西日本では4日にかけて、850hPaの気温が平年より5°C前後高い状態が続く所があり、新たな降雪となる所もある。なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ### 4. 防災関連事項 [量的予報等]
- ① 雨量(06時からの24時間)：伊豆諸島・東海120mm。
 - ② 降雪量(06時からの24時間)：東北・関東甲信40、北海道20cm。
 - ③ 波浪(明日まで)：関東 6、北海道・東北・伊豆諸島・九州北部 5、その他広い範囲で4～3m。
 - ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では注意報基準を超える所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。